

愛 労 連

愛知県労働組合総連合

名古屋市熱田区沢下町8-18
 労働会館第2ビル
 TEL 052-871-5433
 FAX 052-871-5618
 e-mail airouren@lilac.ocn.ne.jp
 発行人 見崎徳弘

第79号 1999年11月10日

当面の行事

- 11月23日(祭) 第5回あいちパート元気の集會 (10:00~めいきん生協生活文化会館)
- 27日(土) 愛労連・労働安全衛生学校 (13:00~犬山・犬山館)
- 28日(日) 愛労連第1回労働組合講座 (10:00~グリーンホテル三ヶ根)

瀬戸市では、給食センターの民間委託や障害者施設の通園バスの委託化、保育園の統廃合など相次ぐ「行革」がすすめられています。瀬戸市職労は委託化では市民要求は実現できないと市民と共同し、運動をすすめています。

要求別に会を結成
 通園バスの民間委託化反対に端を発して結成された「障害を持つ子どもの生活を豊かにする会(障害児通園施設のぞみ学園の父母と労組でつくる)」は、障害児施策の充実を求める要望署名約八〇〇筆を直接市長に手渡し、親としての率直な思いを伝えました。「豊かにする会」では、署名提出後の運動について、

市長や市議会各派に要請して、のぞみ学園にきてもらい、実態を把握してもらおうと話合っています。学校給食でも、当局の給食センター民間委託の表明に、委託化反対の「市民の会」が緊急に結成され、調理員さんも一緒に署名運動をしています。市民は「責任が曖昧になる」と反対署名に積極的です。組合は委託化反対だけに留まらず、学校給食をさら

市民と共同で会結成



「豊かにする会」の話しあい(11/6)

に豊かにするために市民とともにがんばって運動をすすめています。瀬戸の学校給食は、安全で手作りをモットーに、調理員さんたちの努力の積み重ねで、地場産物の陶磁器を給食器に使い、子どもに喜ばれるバイキング給食に取り組むなど、市民や他市の調理員さんにも「瀬戸の学校給食の良さ」が認められてきました。調理員部会では、給食をもっと身近に感じてもらうべく、子どもと一緒に給食を食べて交流するなど、教育の一環としての給食、直営でこそできる新たな実践

税金の使い方を変えて
 「障害児を持つ子どもの生活を豊かにする会」の代表の村松さんは、「障害児が地域で豊かに生活できるような施策をやってほしい。駅前再開発でホテルを建ててくれないなら、学校の施設の整備や福祉関係に人を増やすなど市民にとって有効な税金の使い方をし」と話しています。瀬戸市職労では、市民とともに住民要求を実現するために、共同の運動を各分野で強めています。



犬山職安前でアンケートを配る尾北労連の仲間。失業者はひきもきらず職安をおとずれます。

瀬戸市職労

委託化で市民要求実現できない

県民の生活守れ!



愛労連は一〇月二五日、阿部議長をはじめ二人が愛知県と要請・懇談しました。この要請は、中小企業の倒産や失業率が最悪の状況の中、政府の雇用対策の枠内にとどまらず、県独自の対策や企業に対する行政指導の強化、万博・新空港最優先の県財政の見直しなどを求めたものです。

側。しかし、「万博・空港は不可欠な社会的基盤と認識しているので県民の理解を求めると強弁。参加者は、「自主財源の少ない市町村は補助金カッパで困っている」「社会的基盤整備というなら介護基盤を充実せよ!」「八〇才になる老人は毎年五〇〇〇円の敬老祝い金を楽しみにしている。わずかな敬老金をなぜ削るのだ!」などと県の暮らし・福祉切り捨ての姿勢に強く抗議しました。

は、日産や大手銀行のリストラなど深刻な雇用情勢にふれながら、「企業縮小する木村刃物では、メインバンクの富士銀行の介入で労働者に退職金が正規に支払われない」ことを紹介しながら、事態打開のため県が企業に指導するよう求めました。そして労働者保護の立場から住宅ローンなどは、「再就職まで凍結する施策を」とせまりました。また、全国一般の黒島委員長は、企業が従業員の退職金を解約して、運転資金に使ってしまう事態など中小企業と、労働者の置かれて

し、県のバックアップを求めました。参加者は、リストラや解雇規制など、地域経済を守る立場から大企業の横暴を県が強く指導するよう求めましたが、積極的な対応策は聞かれませんでした。企業に対する啓発活動だけでなく独自の行政指導の強化など求められます。

愛労連は、県下すべての職業安定所前での「働きたいみなさんへのアンケート」を実施中です。一〇月二二日には知多地域(半田職安)が、二八日には、尾北労連(犬山職安)と尾中労連(春日井職安)が取り組みました。調査結果では、離職の理由が、定年や契約期間満了に続き、リストラや退職強要が二番目でした。国に切実に求めるもののトップは、仕事口の確保。二番目は税金や社会保険料の減免措置、続いて失業給付の延長などがあげられました。働きたくても仕事がない

く、生活保障を求める失業者の実態がみえます。最終集約したアンケート結果は、愛知県や労働省交渉時に失業者の要求として反映させます。半田職安前での聞き取りに答えてくれた三五歳くらいの男性は、「妻と子ども二人の四大家族です。七〇人ほどの会社に勤めていましたが、去年の九月にリストラにあいました。仕事は見つからず今は、妻の七万円のパート収入に頼っています。アパート代が四万五千円。食べるにも困っています……」と厳しい生活を話します。

愛労連が雇用・失業で県に要請

雇用確保に有効な施策を!!

小牧基地の戦争準備は許せません!
 自衛隊が米軍に対して空からおこなう「輸送」や「補給」の後方支援に使われる可能性の高いC130H輸送機が三機配備されている小牧基地。「空の後方支援能力は小牧基地だけ」と自衛隊も認めています。防衛庁は、C130H三機を同時運行できるように来

県民集会 新ガイドライン法反対!!
 11 21 小牧集会
 と き 11月21日(日) 12:00~
 と ころ 小牧市・市之久田中央公園



C130H輸送機

「仕事よこせ」切実

職で失業者アンケート

安心して街づくりを

各地連が8回目 街めぐり

住民が暮らしやすい街づくりを考えようと毎年取り組んでいる各地連主催の街めぐり。第八回目を迎えた今年も「介護と環境」をテーマに10月31日、北医療生協、都市計画がすすめられている守山区志段見地域、小幡緑地公園など名古屋北部地域一帯を回りました。



小幡緑地公園内、白沢川で「小幡ホタルの会」の石川さんから話を聞く参加者



志段見の水道局汚泥集積場近くの川。湧水が川に流れこみ、自然が残された地域だ。

街の助け合い ネットワーク

北医療生協では、副理事長の松岡洋文さんから「介護保険に対する北医療生協のとりくみ」についてお話を聞きました。

松岡さんは、介護保険の申請説明会など地域での組合員さんの自主的・積極的な活動を紹介しながら、介護の活動を通して、「街の助け合いネットワークづくりができる」といいます。

ホタルの里 つくりたい

「小幡ホタルの会」の会員・石川弥作さんの案内でホタルの棲む小幡緑地公園内を流れる白沢川を見学。

「源氏ホタルが乱舞する初夏の夜には、近くの親子連れが大勢訪れ、歓声を上げます」と石川さん。

「会」の結成のきっかけは、白沢川の清掃。ホタルの餌になるカワニナが息絶していることを発見しました。ホタルの飛ぶ川にしよう」と訴えました。

安城学園に関連労組を結成

誰でも入れる組合 愛知学泉大学を中心とした学校法人安城学園に、労働組合がありながら加入できなかった職員ら加入できなかった職員

を始め、臨時教員・幼稚園教諭・契約職員、パートタイマーなど、誰でも入れる労働組合が10月16日結成されました。全労連・全国一般愛知地本・安城学園関連労組

た西三河ブロックの「労働相談110番」に相談があり、地域労連や愛労連の協力を得ながら結成に至りました。

10月25日には、安城学園本部に組合結成通件が引き下げられたこと

告と来年の雇用契約の更新や労働条件引き上げを求め、要求を提出しました。

今年三月におこなわれ



10・21県集會に2000人

安保破棄・戦争法反対10・21愛知県集會が名古屋市中区の久屋市民広場でおこなわれ、2000人が参加しました。



港地区がソフトボール大会開催

10月24日(日)名古屋西部野球場で第10回港地区労・名港協共催ソフトボール大会が開催されました。

秋晴れのもと、八チームが参加。高齢化したチームでは息子などの参加もあり若返りました。優勝戦は打撃戦になり、港職労施設分会チームが21対13で全港湾船舶分会を破り優勝しました。

愛労連青年協会は、10月23日(土)に労働会館本館で第10回定期総会を開きました。

共同行動を広げよう 愛労連青年協議会が総会

介護保障の充実を 補助金カット反対も

県下すべての自治体を訪問

愛知社保協・愛労連・自治労連の三団体は、「介護保険の改善」を求め、10月18、19、20日にかけて県下すべての市町村を訪問し、要請をおこないました。



尾西市での要請(10/22)

10月から介護保険の申請受付が始まりましたが、国民の関心は高く「保険料を払って介護を受けられるのか」という不安は大きくなるばかりです。

自公三党は保険料の凍結、低所得者への利用料負担の軽減など、国民の声に押されて矢継ぎ早にさまざまな施策を打ち出しています。

独自の努力も

各自治体の対応はさまざまでしたが、多くの自治体で、制度の発足に当たり、独自の努力をしている姿勢もつかわれました。

福祉・医療への補助金カット反対では、県に意見書を上げるとともに、制度を自治体独自で存続するよう要請しましたが、「県には機会あることに要請している」と自治体当局の苦悩も見せました。

共同行動を広げよう

愛労連青年協会は、10月23日(土)に労働会館本館で第10回定期総会を開きました。

新役員は、議長・森雅子(自治労連)、副議長・木下新悟(JMIU)、事務局長・山田哲也(きずな)が決まりました。